たたかでも，抵抗に身を焦がす主体でもない．それでも，彼らは，いつの間にか感覚が慣れてしまった普段の日常について，それが拠って立つ社会の基盤や，緩慢な変化の彼方に忘れ去られる過去があることに気が付かせてくれる．そして 2 人は，研究書のような専門家同士の閉じた言論の世界と異なり，自らの存在をして，誰にでも手の届くところに批判的な視野をもたらしてくれる．

---

# 「民族多様性」の言葉の中にみる人々

## ―勝ち組か，あるいは負け組か―

佐　井　　旭 *

自身の故郷である上海から日本に帰国してから，わずか 2 日後の深夜 1 時，ボルネオ島サバ州コタキナバルに降り立った．手荷物検査の担当者は，きちんとモニターを見ているのかどうか覗き込みたくなるほど，モニターから目を離して同僚と歓談しており，空港からしてアットホームな雰囲気である．もの寂しい出口を潜り抜けると，モワッとした，湿度が高く泥臭い空気が気管に流れ込み，それが長旅で疲れた身体に追い打ちを掛けた．思わず「きてしまったか」と内心漏らした．近くの taxi チケットカウンターで切符を購入したら，なんと 75 リンギット（日本円約 2,500 円）と高額！？だが乗り込むのは小さく小汚いタクシーだ．降り立つまでの「ボルネオ」のイメージといえば，自然豊かで経済発展の遅れた地域ということだったので，これは意外な価格だった．そうか，仮にもここは州都で，経済発展が著しいマレーシアの一部だと気付く．重たい瞼をかろうじて開けて，街燈が照らす街を眺めながら，揺れる車の意外な心地よさに身を委ねたのだった．

私の研究内容は，人々の生活習慣と肥満についてである．経済発展が急速に進むマレーシアでは，生活習慣病の温床としての肥満が問題視されている．ファーストフードやスナック等の西洋食文化の取り入れや炭酸飲料やシロップをはじめとした砂糖含有飲料の過剰摂取などといった食生活と，自動車の普及

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

**写真１　セントラルマーケットを行き交う人々**

による運動不足などの影響を受け，生活習慣病が健康問題として深刻化しつつある．サバ州は比較的経済発展が遅れているため，国内では肥満率が低いほうであるが，むしろこれから発展が進むときに，他州の二の舞とならないために，研究が必要である．特に同州には他州とは異なる特徴があり，興味深い．まず，先住民が数多く存在するボルネオに位置する多民族な州である．その一方で，州都コタキナバルが近年急に観光都市として経済発展が進みはじめた．民族ごとの生態環境や社会経済的条件と生活習慣病との関連を明らかにするという，新たな研究のためには最適な場所であった．

**ミス・コンテストの審査委員！？**

さてコタキナバルに到着してわずか１週間，民族多様性の在り方を，ちょっと変わった形で体験する機会を得た．日本にいる間から連絡を取り合っていたホームステイ協会の会長に招待され，サバ州最北端に位置するクダットで行なわれる催し事に参加することとなった．車を北に走らせること４時間あまり，既に会場は多くの人々で埋め尽くされていた．到着後来賓席に通されてから知ったのだが，今回のイベントは，サバ・観光大使を決めるミス・コンテストであった．なるほど，会場の熱気も納得である．その後，観客の男性陣から，好みの候補者への，大きな歓声に驚くことになる．さて，トロピカルフルーツの一種であるレンブ（ジャワフトモモ）を用いたものをはじめとする，色とりどりの郷土料理が次々と運ばれてきたが，それらには十分に手をつける時間もなく，別のテーブルに移動するよう言われる．数々の料理に名残惜しく別れを告げる一方で，期待と不安が入り混じった気持ちでいると，主催者でもあるホームステイ協会の会長から，コンテストの審査に参加してもらいたいと言われる．候補者はそれぞれの出身地から代表として選ばれてきていて，順に登場してランウェイでのウォーキングやポージング，衣装の華やかさ，出身地のアピール，また各個人の特技を披露するというものだった．私はうろたえた．ファッション方面には無頓着ではないと自負しているが，いきなり，こちらに到着して間もない自分が，入賞者を決める大役を担わされることに対して，萎縮する思いだった．

**特技披露のはずでは…？**

だがどうやら，それほど深刻に悩まなくても良さそうだということがわかった．来賓には私の他に，同じく招待されたアルゼンチン人の写真家夫妻や，去年の優勝者，他数名が

いたのだが，実際審査に加わるのはこのうち女性の 6 名であり，アルゼンチン人の男性と私はオブザーバーという形で，彼女たちをアシストすることが役目であった．ひとまず安堵をしたが，それでも「アシストタント・ジャッジ」という肩書きなので，気を抜けないことに違いはない．

司会者のアップテンポなかけ声のもと，ついに第一セッションが始まり，続々ときらびやかな衣装に身を包んだ女性候補者が登場する．それぞれの女性の衣装には，出身地の川や星空などといった自然的特徴を取り入れたものが多く，見る者を魅了していた．登場する候補者は外見的特徴もそれぞれ異なり，存在する民族多様性を垣間みることができた．

ここでちょっとした事件発生．各候補者が特技である歌や楽器演奏といった音楽を披露するセッションに突入するのだが，ある候補者はエレクトーンで弾き語りをするが音を何度も外してしまい，あきらかに音程もよいとは言い難かった．伝統的楽器である太鼓を演奏した別の候補者は，ほんの数回だけ叩いて終わりだった．地方都市にすれば大きなイベントであり，会場も満席で，彼女たちが緊張するのも無理はない．しかし，仮にでも各地域を代表してきているのであるから，もう少し「特技」といえるほどに，準備をしてきているものではないのか．だが観客席のリアクションもすごかった．たとえば音を外した候補者には，失敗するごとに男性陣があらん限りの大歓声の嵐を起こした．沈鬱な空気になるはずが，実に痛快なまでに明るいのであった．この調子で最終セッションまで終了し，表彰式へ．イベントのクライマックスは，さぞや盛り上がると思いきや，表彰式自体にはあまり興味を示さず続々と席を立つ観客．一方で入賞者を発表した直後には予め録音されたと思われる拍手音が流れたのだった．

**エピローグ―民族多様性の中の事実**

サバ州には実に約 32 の民族が暮らしている．最大多数とされるカダザン・ドゥスンやサバの民族構成の第 2 位を占める華人系，海岸沿いを中心に生活を形成するバジャウの他，数多くの少数民族が存在する．そして，下層労働力になるというフィリピンやインドネシアからの不法移民なども数多く住む．彼らはそれぞれ独自に文化や生活様式，世界観を形成してきた．外を一歩歩けばさまざまな言葉を耳にし，彼らの日常を垣間みることができる．街の喫茶店で茶を飲み談笑する華人．街行く人々に大声で出発先を連呼しバスへの乗車を促すマレー人男性．これだけ多くの民族を擁するこの国・場所において，彼らをマレーシア人として結びつけているひとつ

**写真 2　華人系が経営する喫茶店にて**

**写真 3　コタキナバル郊外 Papar にて**

の要素は「マレー語」である．それぞれ異なる母語をもっていても，国語のマレー語も話せるバイリンガルは当り前で，英語を話せたり，複数の母語をもったりなどするマルチリンガルもいる．マレー語は公用語としての英語よりも率先してコミュニケーションの際に用いられ，それぞれ異なる出身の人々を繋げている．

サバ州では，「32 もの民族が仲良く暮らしている」というフレーズも使われるほど，民族多様性の豊かさが，観光キャンペーンに用いられている．しかし，そのフレーズとは異なる姿を目にしたこともある．たとえば，華人系が経営する喫茶店には華人系以外の客の姿はほとんどいない．中国語で書かれたメニューを眺めながら店内を見渡すと，客として座っているのは華人だが，忙しく店内を歩き注文をとるマレー系やフィリピン出身の人々がいる．一見，「同じ空間」を有しているのには間違いない．しかし，店を有する華人や，客としてお金をつかう華人に対し，労働している他民族の人々に，身分的格差を感じる．これは，華人系家族が客としてきており，ともにテーブルについている他民族の女性はその家の家政婦だということにも，同じことを思う．一方，政府が進める「ブミプトラ政策」では，学業や社会保障などさまざまな面で，華人系以外の人々への優遇措置がとられている．華人系の人々は，他民族の人々と婚姻関係をもたない限り，その恩恵の享受を得ることはできない．

このブミプトラ政策によって，「32 もの民族が仲良く暮らしている」というフレーズが，果たして「実質的」事実となりうるのだろうか？私自身も，ルーツを辿ると彼らと同じ華人である．彼らに親しみを感じつつ，民族多様性の中に隠された現状に対し複雑な心境を抱えるのであった．